

うしみさらダボール子育て情報

「子どもの成長と精神性」

令和7年9月24日号

板橋富士見幼稚園



心を共にすること

人間の営みと成長発達には、常に目に見えない「心の揺らぎ」が大きく関わっているのですが、それに気づく人は少ないかもしれません。

周りの大人に依存しながら成長する乳児期は、保護者もその子の精神性に慎重に注意深く寄り添い、その子の心の安定や安らぎの時間に配慮しています。しかしその後、成長と共に自立に向かい始める時期になると、社会への適応力を急ぐあまりに、その子の精神性に心を寄せることが少なくなっていくます。そのため幼児は、今までの安定した環境から変化した状況に不安を感じ始め、心の揺らぎが大きくなり、時にその心を安定させようとする自己調整が追いつかなくなったりします。そのような状態が続くと、取り組みに躊躇したり、あきらめたり、無視したりする行為が目立つようになっていくことがあります。



精神的に耐えうる力や、モチベーションを維持したり高めたりする力などの「レジリエンス」を子ども時代に育てていくためには、子どもが成長発達する時期に、大人がしっかりと寄り添い共に歩みながら、基盤となる精神性を強く支えていくことが重要となります。

そのためには、子どもの欲求や葛藤などの小さな「心の揺らぎ」を素早く察知し、自立していく過程の中でも安心して自己肯定感を育ていける寄り添いが大切となります。

「心を共にすること」ということは共に歩むことであり、心の揺らぎや精神性を共有することに他なりません。ぜひ子どもの心を聞いてあげてほしいと思います。



【写真：親子で梨狩り遠足へ。農家の方に採り方のレクチャーを受けた後、親子で真剣に大きな梨や甘そうな梨を選び、収穫を楽しみました。】